

- 大量に生産、消費、廃棄する時代は終わります。移動手段の脱炭素化が進み、再生可能エネルギー由来の電力を使う住居も普及し、衣料・食料でも脱炭素を志向するライフスタイルが定着しています。
- 究極のクリーンエネルギーである水素の利用が広がっています。水素発電が実用化され、水素自動車も普及し、世界に先駆けて兵庫の地で水素を基幹エネルギーとする水素社会が実現しています。
- 地域の再生可能エネルギーによる電力供給を柱に、公的サービスを供給する新しい形の公社が増えています。地域でエネルギーを自給し、災害にも強い、スマートコミュニティが広がっています。
- 暮らしを支える生態系サービスへの理解が広がっています。コウノトリの野生復帰や尼崎21世紀の森づくりをモデルに失われた自然や生態系を復活させる取組が進み、世界の自然再生を先導しています。
- 農村や森林が有する公益的機能への理解が深まり、防災、生態系保全、水源涵養、景観形成などの価値を生むものとして、農林業が大切にされています。
- 林業経営に適した森林が区分され、植林、保育、伐採、利用のサイクルを回す持続可能な林業が営まれています。その他の森林は共有の財産として地域で保全管理され、自然体験などにも使われています。
- 豊かな森の再生により野生動物の本来の生息域が甦っています。野生動物の保護管理の仕組みも整い、人の営みとの共存が実現しています。森や草原の生態系が保全され、イヌワシが空を舞っています。

〈アクション例〉

- 交通手段や住居の電力など日々の生活でカーボンニュートラルを実践しよう。エシカル消費を実践しよう。
- 兵庫を水素社会の先進地にしよう。
- 再生可能エネルギーによる電力供給を柱に、地域に必要なサービスを供給する新しい形の公社を作ろう。
- 白砂青松、水辺、せせらぎなど、身近な自然と生態系を

復活させる取組を各地で進めよう。

- いろいろな形で県産木材の利用を広げよう。

「生態系サービス」とは？

生物多様性を基盤とする生態系から得られる恵みを正しく評価するための概念で、①食料・木材等の供給サービス、②気候等の調整サービス、③生息・生育地サービス、④景観等の文化的サービスの4つの側面があります。

- 社会のデジタル化に伴い、人口の大都市集中が緩和し、自然に近い場所で暮らす人が増えています。都市と多自然地域が近接する県土の多様性を活かしてワーケーションや二地域居住、多拠点居住のライフスタイルが広がり、副業で農業や狩猟に携わる人も増えています。地域で暮らす人々の営みが自然環境や生物多様性の保全につながっています。
- 古民家をはじめ空き家を活用して魅力的な暮らしをする人が増えています。いろいろな住まいが選べ、持ち家にこだわらない住まい方も広がっています。
- 自らの力で地域をより良くしようとする協働のまちづくりが根付いています。住民主導のエリアマネジメント組織が各地に生まれ、人間中心にデザインされた街路や賑わいを生むオープンスペースが増え、歩いて楽しめる魅力的なまちが形成されています。
- 持ち前の資源を活かして元気な地域をつくる取組が広がっています。そうした活動が地域の風景とともに住民の誇りとなり、ふるさとへの愛着を育んでいます。周りで楽しく生きる大人を見て育った子どもが大人になっても地域と関わり続けています。
- 山、川、海へのアクセスが整い、兵庫の豊かな自然を楽しむ人が増えています。県全域を歩いて巡る道（フットパス）が整備され、人気を集めています。
- 公的なサービスが共通化し、多様な住まい方を支える住民票や住民税の制度も整っています。電子投票も普及し、誰もが選挙に参加し易くなっています。
- デジタル化により自治体運営が高度化しています。意思決定過程は透明化され、多様な主体の集合知を活かす仕組みで施策の精度が高まっています。

〈アクション例〉

- 安心して二地域・多拠点居住ができる環境を整えよう。
- 自分たちの力でまちづくりを進めよう。まちづくりにいろいろな人が参加できるプラットフォームを作ろう。
- 民間企業やクリエイターを巻き込んで地域をより良い空間にする取組を進めよう。
- 県内を歩いて巡れるフットパスを整備しよう。

- 自治体運営のデジタル化・透明化を進めよう。

「都市化」から「開疎化」へ

大都市に人が集まり、それ以外の空間が置き去りにされる「都市化」がこれまでの潮流でしたが、コロナ禍により、密集、密閉をリスクとして避ける意識が生まれ、開放された「疎」な空間（豊かな自然環境や自然に囲まれた中小都市）に向かう人の流れが生まれています。

- 暮らしの持続可能性を高める産業が集まる地域として兵庫の名が知られています。海上空港と国際戦略港湾を持つ日本有数の地の利を活かし、環境エネルギー、健康医療、ロボット、航空宇宙、新素材、海洋開発、防災、ITなど先端科学技術を手掛ける企業が集まり、地域の新しい基幹産業となっています。
- 神戸医療産業都市を中心に健康医療産業の世界的な集積地になり、生命科学の最先端をリードする研究開発の成果が続々と生まれています。
- 水素社会を支える関連産業が兵庫の地に集積しています。臨海部に水素の受入・供給基地が立地してプラントの製造や技術開発を行う企業が集まり、新たな事業者の参入も進んでいます。水素をはじめとした環境エネルギー産業の一大拠点となっています。
- ものづくり産業が先端科学と融合して進化し、資源循環や食料生産など新しい分野に進出しています。
- 県内に立地する世界最高水準の科学技術基盤を活用し、大学や研究機関、企業が連携して、人類の課題を克服する研究成果が次々と生み出されています。新技術の実装に向け、様々な社会実験が県内で行われ、県民も試行錯誤のプロセスに参画しています。
- 多様な地域特性が凝縮された「日本の縮図」兵庫における社会課題の解決に向けた取組が国内外のモデルになっています。兵庫の企業や地域の取組が広く発信され、そのアプローチを学びに国内外から多くの人が県内各地を訪れています。
- 広域連携により新たな価値を生む関西経済圏が世界の中で存在感を発揮しています。

〈アクション例〉

- 水素関連産業を基幹産業として育てよう。水素をはじめとした環境エネルギー産業の一大拠点を作ろう。
- 神戸医療産業都市を核に健康医療産業を盛り上げよう。
- 中小企業の新分野進出を応援しよう。
- 大学・研究機関と企業間の連携をもっと強めよう。世界有数の科学技術基盤を活かして研究開発を進めよう。
- 公民連携のプラットフォームを活かして、新しい課題に

挑戦する人材と企業を呼び込もう。

- 兵庫の社会課題解決モデルを世界へ発信しよう。

国のムーンショット研究開発目標（2050年までに実現）

- ①身体、脳、空間、時間の制約からの解放
- ②超早期の疾患予測・予防
- ③人と共生するロボット
- ④持続可能な資源循環
- ⑤持続可能な食料供給
- ⑥汎用量子コンピュータ
- ⑦持続可能な医療・介護
- ⑧台風・豪雨の制御
- ⑨こころの安らぎと活力の増大